

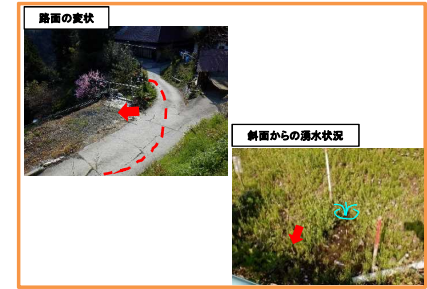
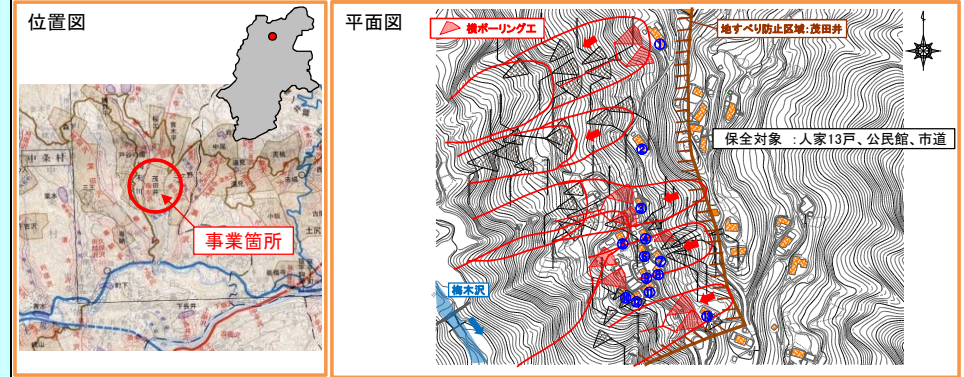
(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		地すべり対策		路河川名等		(地)茂田井		
事業毎の通番		1	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	茂田井(むたい)		
事業概要	事業目的	茂田井地区は、長野市西部に位置し、保全対象として人家、避難所となる公民館及び市道を有する地すべり地域である。昭和38年の地すべり防止区域指定後から平成10年度までの間に地すべり対策工を実施した経過があるが、未対策箇所での湧水や変状が確認されている。今後の降雨において滑动が活発化する恐れがあることから、早急に対策を実施し、民生の安全を図る。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	地すべり等防止法			
	関連する事業、計画等							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	保全人家13戸、公民館、市道						
	着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2024年度(令和6年度)	費用対効果	13.3		国庫	その他	県債
全体事業内容(主な工種)	横ボーリング工 ΣL=1,350m、山腹水路工 L=200m			90,000	45,000		40,500	4,500
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	保全人家13戸、公民館、市道						
	間接的効果(定量的・定性的)	地域に生活する人々の安全・安心な生活空間を確保し、定住人口の減少や減災が期待される。						
評価の視点	必要性	○人家戸数：13戸 ○公共施設：公民館、市道 ○河川への土砂流入量：梅木沢					評価	B
	重要性	○災害履歴：善光寺地震(1847年) ○交通影響：市道の遮断 ○地域防災計画上の位置付け：避難所(中内公民館)					評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C)：13.28 ○事業期間：5年間 ○工法比較検討：経済性、景観についての検討あり					評価	A
	緊急性	○地すべり活動度：降雨時に軽微な動きがある ○地すべり変状：変状あり ○下流整備状況：梅木沢堰堤整備あり					評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者を中心に周知 ○地域の取り組み：協力的である ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働：予定されていない ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック：事後評価 課題等整理表 整理番号:1-4					評価	B
	所管課の意見	保全対象には人家13戸等が立地しており、地すべりによる変状等が認められることから、早期に事業を実施する必要があり、事業着手が妥当と判断する。				採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○	B		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

【位置図、平面図、構造図等】

事業概要説明図表



①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該区域は、20°～30°の斜面で、弘化4年の善光寺地震により滑动を始め、昭和10年、18年、25年、28年、33年、37年と継続的に滑动が認められ、昭和38年には防止区域の指定となっている。以降地すべり対策工を実施した経過はあるものの、未対策箇所において斜面の変状や湧水が確認されており地元からは地すべり対策事業の実施を求められている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	過去には地すべり活動が顕著に確認された経過があり、未対策部分に湧水等が認められていることから、地すべりの対策を望む地元要望がある。
③事業説明等の経緯	道路の変状、斜面からの湧水などが確認されていることなどから、地元より対策を望む強い要望有り。今後事業説明を実施する予定。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	特になし。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	工事に伴う地形改変を極力少なくするような計画を検討。地すべり施設(横ボーリング)は地中構造物が主であり、環境への負荷は極めて少ない。
⑥地域活性化への影響と配慮	保全対象となる市道がバス路線であることから、その路線の安全性の向上が期待される。
⑦その他	
事後・再評価からのフィードバック	施設整備とあわせて、異常発生時の情報伝達の強化、避難方法・経路の確認、防災意識の啓発活動といったソフト対策の充実を図る。
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 37' 27" 東経:E 138° 2' 52"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	地すべり対策		路河川名等	(地)舟の倉		
事業毎の通番	2	市町村名	飯山市	箇所名(ふりがな)	舟の倉(ふねのくら)	
事業目的	飯山市舟の倉地区は、令和2年4月の融雪により地すべりが発生した。このまま放置すれば、変状がさらに拡大し周辺人家や国道等への被害が懸念される。このため地すべり対策工を実施し人家、国道等を保全し、民生の安全を図る。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等	地すべり等防止法		
関連する事業、計画等	災害関連緊急地すべり対策事業					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家7戸、国道292号、市道、一級河川長沢川((砂)松田川)					
着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	2年間	事業費(千円)		
完成年度(見込み)	2021年度(令和3年度)	費用対効果	1.0	国庫	その他	
全体事業内容(主な工種)	横ポーリング工 L=420m、脚部保全工 L=50m、山腹水路工 L=300m		120,000	60,000	54,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的) 人家7戸、国道292号、市道、一級河川長沢川((砂)松田川)					
	間接的効果(定量的・定性的) 地域の安全性が向上し、地域の活性化につながる。					
評価の視点	必要性	○人家戸数：7戸 ○公共施設：国道、市道 ○河川への土砂流入量：(一)長沢川((砂)松田川)へ1万m3			評価	B
	重要性	○災害履歴：令和元年東日本台風(R1.10.12~13)に伴う大雨 ○交通影響：大(国道292号) ○地域防災計画上の位置付け：長野県地域防災計画(緊急輸送路:国道292号)			評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) 1.03 ○事業期間：2年間 ○工法比較検討：検討中			評価	B
	緊急性	○地すべり活動度：軽微な動きがある。 ○地すべり変状：変状あり ○下流整備状況：あり(概ね満砂)			評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者を中心に周知 ○地域の取り組み：協力的である ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働：予定されていない ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック：事後評価 課題等整理表 整理番号:1-4			評価	B
所管課の意見	保全対象には人家7戸等が立地しており、地すべりによる変状等が認められることから、早期に事業を実施する必要があり、事業着手が妥当と判断する。			採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	B	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】		
	位置図	平面図	
	滑落崖の状況	水路工の座屈変形	
	保全対象平面図		
①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	令和2年4月の融雪に伴い発生した地すべりによって、脚部保全工(護岸工)が倒壊するなどの被害が生じた。今後、大雨等により、被害の拡大が懸念されており、本事業を実施するもの。		
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	令和2年4月の融雪により地すべり変状が発生した。河川の閉塞等による富倉地区への影響はもとより、下流にも多大な影響があると考えられるため、地元からの要望は強い。		
③事業説明等の経緯	令和元年東日本台風による災害関連緊急地すべり対策事業の実施に併せて地元説明を実施している。		
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	令和元年東日本台風による災害関連緊急地すべり対策事業で隣接ブロックの対策を予定。		
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	工事に伴う地形改変を極力少なくするような計画を検討している。		
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により地域の安全性が向上し、地域の活性化につながる。		
⑦その他			
事後・再評価からのフィードバック	施設整備とあわせて、異常発生時の情報伝達の強化、避難方法・経路の確認、防災意識の啓発活動といったソフト対策の充実を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 54' 51" 東経:E 138° 18' 48"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	地すべり対策		路河川名等	(地)前沢	
事業毎の通番	3	市町村名	小谷村	箇所名(ふりがな)	前沢(まえざわ)
の つ う こ う を か く ほ	事業目的	小谷村前沢地区では、近年地すべりの変状が確認されており、下流域の人家、国道等への被害が懸念されている。今後、地すべり対策工事を実施し、民生の安全を図る。			
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)	事業実施の根拠法令等	地すべり等防止法	
	関連する事業、計画等				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家3戸、国道148号(第一次緊急輸送路)、村道、一級河川姫川			
	着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	7年間	事業費(千円)
完成年度(見込み)	2026年度(令和8年度)	費用対効果	1.3	国庫	その他 県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	集水井工 N=3基、横ポーリング ΣL=2,840m		400,000	200,000	180,000 20,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家3戸、国道148号(第一次緊急輸送路)、村道、一級河川姫川			
	間接的効果(定量的・定性的)	地域住民の安心安全な生活を確保するとともに、迂回路の無い国道148号の通行を確保する。			
評 価 の 視 点	必要性	○人家戸数 : 3戸 ○公共施設 : 国道148号、村道 ○河川への土砂流入量 : 姫川へ1万m3			評価 B
	重要性	○災害履歴 : 平成7年集中豪雨による土石流災害 ○交通影響 : 国道148号(第一次緊急輸送路) ○地域防災計画上の位置付け : 国道148号(第一次緊急輸送路)			評価 A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.33 ○事業期間 : 7年間 ○工法比較検討 : あり			評価 B
	緊急性	○地すべり活動度 : 軽微な動きがある ○地すべり変状 : 変状あり ○下流整備状況 : あり(概ね満砂)			評価 B
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○住民との協働 : 予定なし ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後評価 課題等整理表 整理番号:1-4			評価 A
所管課の意見	保全対象には人家3戸等が立地しており、地すべりによる変状等が認められることから、早期に事業を実施する必要があり、事業着手が妥当と判断する。			採択状況 ○	総合評価 B
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】	
		
		
		
		
	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	小谷村前沢地区では、平成7年に土石流が発生し砂防堰堤が整備された。この堰堤施工時に、斜面に地すべり性的変状が確認され、以降、地すべり対策工事を実施し令和元年度に一部概成した。近年、未対策のブロック(本事業対策箇所)において変状が確認されたため、早急に地すべり対策を実施する。
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	国道148号を寸断する恐れがあり、地域住民からは早期の完成を望まれている。
③事業説明等の経緯	事業着手について、住民説明を行い合意を得ている。	
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	特になし。	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	地形改変を少なくし、水質汚濁を極力少なくする計画を検討する。	
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により、地域住民の安心安全な生活空間を確保することで、定住人口の減少の低減が期待される。	
⑦その他		
事後・再評価からのフィードバック	施設整備とあわせて、異常発生時の情報伝達の強化、避難方法・経路の確認、防災意識の啓発活動といったソフト対策の充実を図る。	事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 51' 10" 東経:E 137° 52' 59"

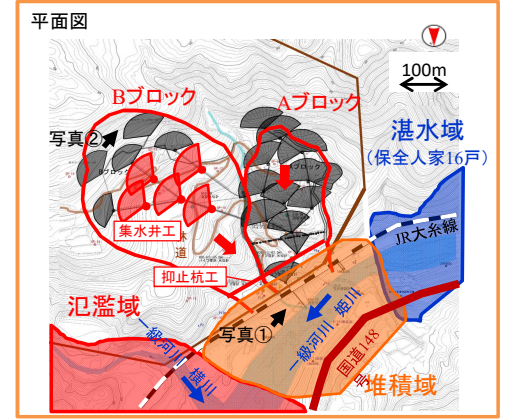
(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	地すべり対策		路河川名等	(地)大網	
事業毎の通番	4	市町村名	小谷村	箇所名(ふりがな)	大網(おあみ)
事業概要	事業目的	当地区は、平成10年～19年にかけて地すべり対策事業を実施し、JR大系線及び国道を保全してきた。平成25年にはJRから軌道にゆがみが確認されると報告があり、継続をしていた観測ではブロック全域に累積的な変状が確認された。地すべりにより被災した場合は地区広域に大きな影響を与えるため、新たに調査及び地すべり対策を実施したい。			
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)	事業実施の根拠法令等	地すべり等防止法	
	関連する事業、計画等				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家16戸、国道148号(第一次緊急輸送路)、JR大系線、一級河川姫川			
	着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	9年間	事業費(千円)
完成年度(見込み)	2028年度(令和10年度)	費用対効果	1.1	国庫	その他 県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	集水井工 N=5基、抑止杭工 N=60本			800,000	400,000 360,000 40,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家16戸、国道148号(第一次緊急輸送路)、JR大系線、一級河川姫川			
	間接的効果(定量的・定性的)	地域に生活する人々の安全・安心な生活空間を確保し、定住人口の減少や減災が期待される。			
評価の視点	必要性	○人家戸数 : 16戸 ○公共施設 : 国道148号(第一次緊急輸送路)、JR大系線 ○河川への土砂流入量 : 250万m3			評価 A
	重要性	○災害履歴 : 昭和54年、平成7年7月 ○交通影響 : 国道148号(第一次緊急輸送路)、JR大系線 ○地域防災計画上の位置付け : 国道148号(第一次緊急輸送路)			評価 A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 1.06 ○事業期間 : 9年間 ○工法比較検討 : 経済性について検討あり			評価 B
	緊急性	○地すべり活動度 : 顕著な動きがある。 ○地すべり変状 : 変状あり ○下流整備状況 : なし			評価 A
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 予定されていない ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後評価 課題等整理表 整理番号:1-4			評価 B
	所管課の意見	保全対象には人家16戸等が立地しており、地すべりによる変状等が認められることから、早期に事業を実施する必要があり、事業着手が妥当と判断する。			採択状況 ○
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			総合評価 A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手

【位置図、平面図、構造図等】

事業概要説明図表



事業周辺環境

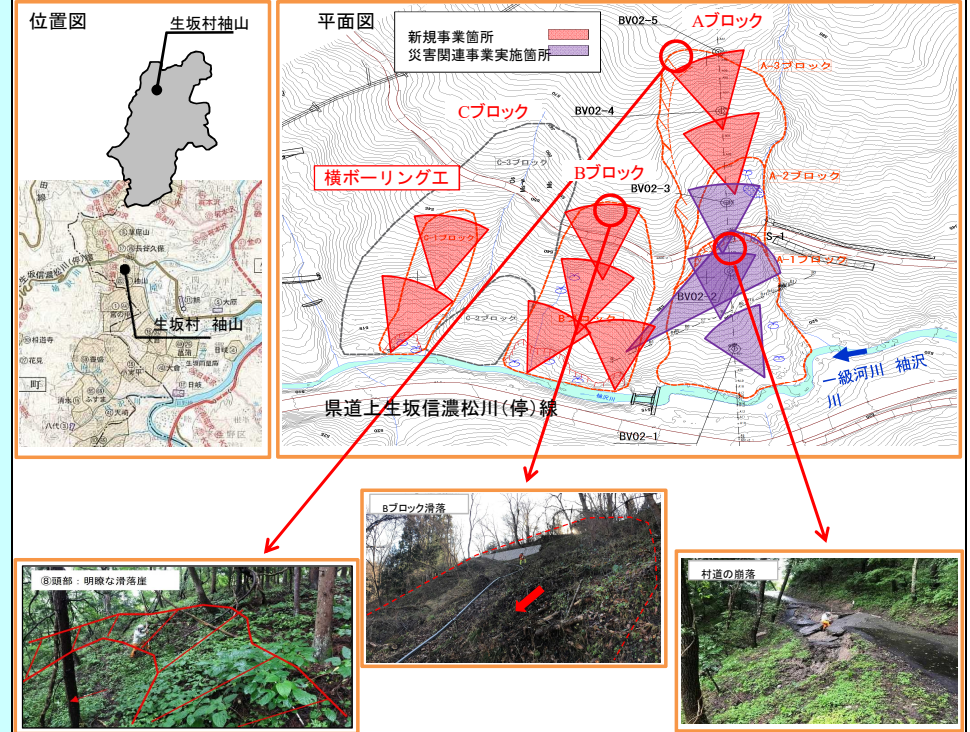
①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	平成7年7月豪雨によりAブロックの末端が崩壊し、翌年度に地すべり防止区域に指定。平成11年から対策工を施工し、平成18年に完了。その後、継続的に地すべり観測を行っていた。しかし、平成25年にJR大系線軌道にゆがみが確認されたため、観測孔の老朽化を鑑みて孔口の再設置と地表移動杭の設置等を行った。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	JR大系線及び国道148号線は長野県と新潟県をつなぐ重要な路線である。地元地区のみならず村内外の人も多く利用するため、これを保全し安全な交通を確保するための対策工が望まれている。
③事業説明等の経緯	当該地域については毎年定期観測を行っており、地元地区へは区長を通じて文書を回覧している。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	特になし。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	工事に伴う地形改変を極力少なくするような計画を検討している。ブロック内に蝶の希少種が確認されており、過去の工事では蝶の捕食する草木の移植を行っている。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により重要な交通網の保全を行うことで、地域住民の減少を抑えることができる。
⑦その他	
事後・再評価からのフィードバック	施設整備とあわせて、異常発生時の情報伝達の強化、避難方法・経路の確認、防災意識の啓発活動といったソフト対策の充実を図る。
事業代表地点の緯度経度	北緯: N 36° 53'47.56" 東経: E 137° 52'15.79"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		地すべり対策		路河川名等		(地)袖山		
事業毎の通番		5	市町村名	生坂村	箇所名(ふりがな)		袖山(そでやま)	
事業概要	事業目的	令和2年7月豪雨により、東筑摩郡生坂村袖山地籍において地すべりが発生し、村道が流失した。該当箇所は災害関連事業にて対策を行っているが、隣接するブロックについても地すべりの活動が確認され、河道閉塞による甚大な被害が想定されるため、早急な事業着手が必要である。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		地すべり等防止法		
	関連する事業、計画等	災害関連緊急地すべり対策事業						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家11戸、県道上生坂信濃松川(停)線、村道、一級河川袖沢川						
	着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	2023年度(令和5年度)	費用対効果	1.1	国庫	その他	県債	一般財源	
全体事業内容(主な工種)	横ボーリング工 ΣL=1,200m			100,000	50,000	45,000	5,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家11戸、県道上生坂信濃松川(停)線、村道、一級河川袖沢川						
	間接的効果(定量的・定性的)	地域に生活する人々の安全・安心な生活空間を確保し、定住人口の減少や減災が期待される。						
評価の視点	必要性	○人家戸数：11戸 ○公共施設：県道、村道、一級河川袖沢川 ○河川への土砂流入量：3万m3					評価	B
	重要性	○災害履歴：令和2年7月豪雨 ○交通影響：村道が通行止めの状態 ○地域防災計画上の位置付け：地すべり防止区域あり					評価	B
	効率性	○費用対効果(B/C) 1.08 ○事業期間：4年間 ○工法比較検討：あり					評価	B
	緊急性	○地すべり活動度：顕著な動きがある。 ○地すべり変状：変状あり ○下流整備状況：なし					評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者を中心に周知 ○地域の取り組み：協力的である ○地域の合意形成：合意形成が図られている ○住民との協働：予定されていない ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック：事後評価 課題等整理表 整理番号:1-4					評価	B
	所管課の意見	保全対象には人家11戸等が立地しており、地すべりによる変状等が認められることから、早期に事業を実施する必要があり、事業着手が妥当と判断する。					採択状況	総合評価
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手			

【位置図、平面図、構造図等】



事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	昭和37年に地すべり防止区域に指定され、これまで対策工事が行われてきたが、令和2年7月豪雨により当該箇所の村道が流失した。令和2年度に採択された災害関連緊急地すべり対策事業により、応急対策として横ボーリング工を実施。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	令和2年7月豪雨により、村道が流出した。下流には人家、ブロック下部は一級河川袖沢川及び県道上生坂信濃松川(停)線があり、地すべり対策による生活な安全・安心な暮らしの確保が望まれている。
③事業説明等の経緯	令和2年7月に役場から関係地権者へ、現状及び対策工事への協力依頼を行い、同意を得た。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	令和2年7月豪雨による災害関連緊急地すべり対策事業でA1ブロックの対策を実施する。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	工事に伴う地形改変を極力少なくするような計画を検討している。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により村道の早期開通を図り、地域の安全・安心な暮らしを確保する。
⑦その他	
事後・再評価からのフィードバック	施設整備とあわせて、異常発生時の情報伝達の強化、避難方法・経路の確認、防災意識の啓発活動といったソフト対策の充実を図る。
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 25' 59" 東経:E 137° 54' 40"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		地すべり対策		路河川名等		(地)釜沢		
事業毎の通番		6	市町村名	大鹿村	箇所名(ふりがな)		釜沢(かまさわ)	
事業概要	事業目的	令和2年7月豪雨により発生した地すべりブロック(幅260m長さ340m)を横断する、県道及び林道が大きく段差が生じ通行できなくなり、釜沢集落が孤立することとなった。また、ブロック末端は小渋川の浸食を受けており、土砂が流出した場合、下流の大鹿小学校等の公共施設や生活道路にも大きな被害を及ぼす恐れがある。このため、地すべりを誘発する行為を制限するとともに対策工を実施し、民政の安定を図る必要がある。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		地すべり等防止法		
	関連する事業、計画等	災害関連緊急地すべり対策事業						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家19戸、県道赤石岳公園線、林道、大鹿小学校(避難所)、博物館、発電所、気象観測所						
	着手年度	2020年度(令和2年度)	事業期間	5年	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	2024年度(令和6年度)	費用対効果	2.0		国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容(主な工種)	横ポーリング工 L=6,750m、法面工 A=5,500m <sup>2</sup>			900,000	450,000		405,000	45,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	人家19戸、県道赤石岳公園線、林道、大鹿小学校(避難所)、博物館、発電所、気象観測所						
	間接的効果(定量的・定性的)	地域に生活する人々の安全・安心な生活空間を確保し、定住人口の減少や減災が期待される。						
評価の視点	必要性	○人家戸数：19戸 ○公共施設：県道、林道、大鹿小学校(避難所)、博物館、発電所、気象観測所 ○河川への土砂流入量：140万m <sup>3</sup>					評価	A
	重要性	○災害履歴：令和2年7月豪雨 ○交通影響：釜沢集落の孤立化 ○地域防災計画上の位置付け：避難所(大鹿小学校)あり					評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C)：1.96 ○事業期間：5年間 ○工法比較検討：あり					評価	A
	緊急性	○地すべり活動度：顕著な動きがある ○地すべり変状：変状あり ○下流整備状況：直轄管理の堰堤あり(満砂)					評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有：大鹿村リニア協議会での説明 大鹿村広報誌で村民に周知 ○地域の取り組み：積極的な取り組みがある 事業用地の調整等に積極的な協力を得ている。 ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働：予定されていない ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック：事後評価 課題等整理表 整理番号:1-4					評価	A
	所管課の意見	保全対象には人家19戸等が立地しており、地すべりによる変状等が認められることから、早期に事業を実施する必要があり、事業着手が妥当と判断する。				採択状況	総合評価	
建設部公共事業評価委員会の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

【位置図、平面図、構造図等】

位置図

大鹿村 釜沢

平面図

横ポーリング工  
法面工

新規事業箇所  
災害関連事業実施箇所

事業概要説明図表

全景写真

1 林道  
2 県道赤石岳公園線  
3  
4

①堰堤崩壊の状況

②県道の地下滑層

③林道の地下滑層

④地すべり末端の崩壊状況

一級河川 小渋川

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	令和2年7月豪雨により発生した地すべりにより、ブロック内を横断する県道と林道が通行止めとなり、釜沢集落が一週間孤立となった。令和2年度内に地すべり防止区域に指定する予定であり、令和2年8月に採択された災害関連緊急地すべり対策事業により、応急対策として横ポーリング工と集水井を実施。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	地すべり変状が発生したブロック内を横断する道路は、釜沢集落への唯一のアクセス道路であるため、地すべり対策による安全・安心が望まれている。
③事業説明等の経緯	令和2年9月29日大鹿村リニア対策協議会(以下、協議会)で、被災状況および対策等について説明。また、協議会での説明内容を大鹿村広報誌を通じて、村民へ周知。応急対策工事前の令和2年10月1日に釜沢集落住民に工事説明会を実施。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	令和2年7月豪雨による災害関連緊急地すべり対策事業で工事を実施。
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	工事に伴う地形改変を極力少なくするような計画を検討している。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により県道および林道の安全・安心を図り、当該地域の人口減少の対策としても期待される。
⑦その他	県道はリニア中央新幹線の工事事用道路として利用されている。

事後・再評価からのフィードバック	施設整備とあわせて、異常発生時の情報伝達の強化、避難方法・経路の確認、防災意識の啓発活動といったソフト対策の充実を図る。	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 31' 57.8" 東経:E 138° 04' 36.4"
------------------	--	-------------	---